

狭山の若手生産者がさといもPRに取り組んでいます！！

川越農林振興センター管内は全国有数のさといもの産地で、JAによる厳しい選別基準や食味の良さから、市場をはじめとする流通業界から高い評価を得ています。しかし、さといもの消費量は減少傾向にあります。

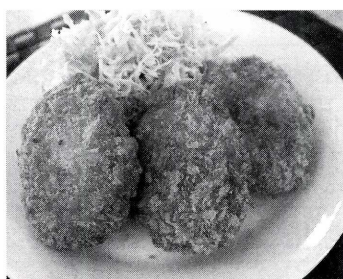
このような状況の中、さといもの消費を拡大させようと、生産者自らがPR活動に取り組み始めました。今回は狭山市内の2つの団体の取組について紹介します。

さやま里芋増産倶楽部 ～里芋づくりのスペシャリスト集団～



昨年2月、「狭山の美味しいさといもをもっと全国の人々に知ってもらいたい。」そんな熱い思いから、狭山市農業青年会議所に属するメンバー7人が「さやま里芋増産倶楽部」を設立しました。狭山産さといものPR、さといもを使った特産品の開発、利用されていない親いもの有効利用を行うのが目的です。

こうした取組から親いもを加工した「さといもコロッケ」、通称「さとコロ」が誕生しました。JAを通じて食品会社に出荷、加工されたコロッケは、市内精肉店や飲食店で販売され、また、狭山市農業祭や圏央道狭山パーキン



さといもコロッケ

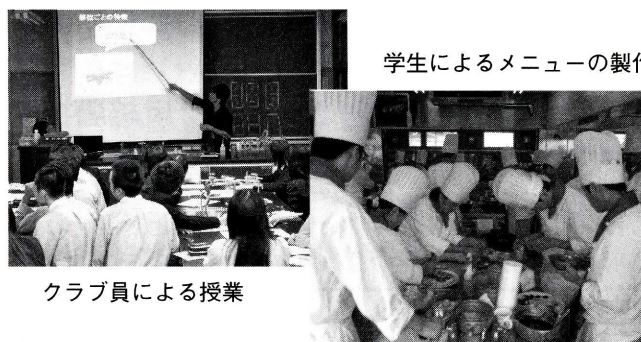
グエリアなどのイベントでPR販売を行い、大人気となっています。こうした取組が狭山のまちを元気にしています。

狭山市4Hクラブ ～狭山市の農業後継者グループ～



今年度狭山市4Hクラブでは「さといものPR」をプロジェクト活動として取り上げ、次の3つの活動を行いました。

- 1 西武文理高校と連携した総合学習
- 2 さといものメニュー開発
- 3 惣菜用さといもの原料供給



学生によるメニューの製作

クラブ員による授業

特にメニュー開発の取組ではさといもの食べ方を増やすため、西武学園調理師専門学校(所沢市)と連携し、10品のメニューを考案しました。レシピは農業祭等で配布したほか、県庁第一食堂では「さといもハンバーグ」としても提供されました。今後も食育活動やさといもの消費拡大活動を展開していく予定です。